

山口県農業信用基金協会

1 山口県の紹介

山口県は本州の最西端に位置し、三方が海に開かれ、東は島根県と広島県に接し、北は日本海、西は響灘、南は瀬戸内海に面し、関門海峡を隔てて九州と接しています。

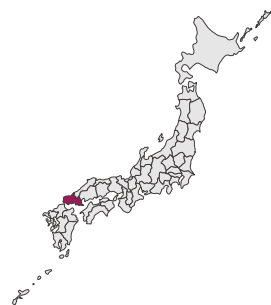
また、県の東西には中国山地が走り、瀬戸内海沿岸地域、内陸山間地域、日本海岸地域の大きく3つに分けられ、気候は温暖であり、風水害や地震も比較的少ない特徴があります。

山口県の観光地は、“一生に一度は訪れたい場所”として下関市の「角島大橋」、米テレビ局CNNの“日本の最も美しい場所31選”で選ばれた長門市の「元乃隅神社」などが、国内外で紹介されていましたが、本年1月に米有力紙ニューヨーク・タイムズが「2024年に行くべき52カ所」を発表し、日本からは唯一、本県の山口市が全体の3番目として選ばれました。

“西の京”とも呼ばれる山口市には「非の打ちどころがない」と絶賛された「国宝

瑠璃光寺五重塔」をはじめ観光地が点在しており、今回、世界的に取り上げられたことで、国内外からの観光客の更なる増加に期待が寄せられています。

みなさんも、是非、おいでませ山口へ！！



「国宝 瑠璃光寺五重塔」(現在、改修中です)

2 山口県の農業

山口県の農業は、米が県内全域で栽培されており、県の農業産出額643億円(令和3年)のうち27%を占めています。また、野菜が農業産出額のうち23%で、県中西部の指定野菜を中心にキャベツ、だいこん、たまねぎ、トマトが栽培されています。果樹は、瀬戸内側を中心に温州みかん、中山

間地域では、なし、りんご、くりなどが栽培され、畜産は、肉用牛、乳用牛、豚、鶏が各地で飼養されています。

山口県の特産品といえば「ふぐ」を連想される方が多いと思いますが、魅力ある山口県オリジナルの農産物もたくさんありますので、ここでご紹介いたします。



はなっこりー

中国野菜サイシンとブロッコリーをかけ合わせて作られた野菜で、クセがなく甘みがある味で、茎、葉、花蕾を含めてすべて食べることができます。



萩たまげなす

長門市の田屋なすが萩市にも種が渡り栽培が拡大されており、外観がよく1本が500g以上あるものを「萩たまげなす」と呼びます。



せとみ (ゆめほっぺ)

清美と山口県原産の吉浦ポンカンをかけた合わせた柑橘です。「せとみ」のなかでも一定の果実品質基準を満たしたものを「ゆめほっぺ」として販売されています。



長門ゆずきち

種が少なく、果汁がたっぷりで、ゆずとすだちをブレンドしたような爽やかな香りとまろやかな酸味が特徴です。

3 山口県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事9名（うち常勤1名）、監事3名の役員12名、職員14名で、総務部と業務部の2部体制にて業務運営を行っています。

なお、当協会は令和6年4月30日付で事務所を移転しました。この場をお借りして改めてご案内させていただきます。

新住所：山口市小郡黄金町11番3号



4 山口県農業信用基金協会の活動

当協会の保証実残高は、他保証機関との競争激化等により平成19年度をピークに減少を続けていましたが、平成22年度の自動審査システムの導入、保証料率の見直しを機に増加に転じました。

また、平成31年4月に県下12JAが1JAに合併しJA山口県が発足してからは、JAグループ・協会との協調による住宅ローンの保証料率引下げ、各種ローンのインターネット申込みの推進等により、当協会の保証実残高は、平成30年度末の1,019億円から令和5年度末には1,481億円に増加しています。

しかしながら、当県域では住宅ローン、小口生活資金において複数の保証機関が参入しており、今後も予断を許さない状況です。こうしたなか、当協会は、利便性向上

はもちろんのこと、気軽に相談できる顔が見える保証機関を目指し、JAとの信頼関係の構築に日々努力しています。

一方、農業資金については、生活資金の保証実残高の増加に伴い、その割合は全体の5%に満たない状況となっています。こうした状況も踏まえ、令和5年8月、業務部の保証引受態勢を、「推進企画・農業資金担当」と「生活資金担当」に分け、農業者等及び融資機関への訪問等、機動的な対応が可能となるよう機構の変更を行いました。

今後は、令和7年9月導入予定の全国統一の保証審査システムについて、先行導入県の運用事例を参考にしつつ円滑な導入・運用を行い、これまで以上に農業者等及び融資機関の負託に応えられるよう業務に取り組んでまいります。

